



金地 昇史さん
国際コンサルティング
事業本部

専門性を高めて 交渉術を培う

就職活動で、教授に国際協力のキャリアについて相談したところ、「まず現場を見るべき」とアドバイスいただき、青年海外協力隊に参加しました。

スリランカ・コロomboの廃棄物最終処分場に配属され、最終処分場に搬入されるごみを減らすための自治体支援、ごみの組成調査や、堆肥化施設の情報収集などに携わることができました。当社への入社は、スリランカで現在の上司と知り合ったことがきっかけです。

海外での現場に立つと、予期せぬ事態発生への対応や、交渉の難しさを感じます。現地の人々の意思を尊重しながら真摯に交渉をする上司の姿勢から学ぶ毎日です。時流に合わせて都市環境に関わる専門性を高めて、いずれはアジアから中東、アフリカへ、経済発展に伴って顕在化する各国の都市環境の社会課題に挑戦していきたいです。

エックス都市研究所に
入社

国内の環境NGOで
インターン

青年海外協力隊
(スリランカ/環境教育)
に参加

国内の環境NPOで
インターン

九州大学法学部卒業

相手国に利益をもたらす 寛容性がカギ

入社1年未満ながら、現在はスリランカの西部州で、国際協力機構（JICA）の技術協力プロジェクトの廃棄物管理マスタープラン策定支援に携わらせてもらっています。スリランカは、経済成長や人口増加に伴って廃棄物の排出量が増加中です。そのなかで、ごみの収集運搬、リサイクルや中間処理施設など多くの課題を抱えており、今後20年の廃棄物管理が継続的に発展していくための指針となるマスタープランを作成します。

私は業務調整をはじめ、マスタープラン策定のための現地での廃棄物管理の基礎情報調査、パイロットプロジェクトとしての共同住宅での3R（リデュース、リユース、リサイクル）の住民啓発活動など、幅広く仕事に取り組んでいます。

上司が相手国の担当省庁と合意形成を取りつつプロジェクトを進める姿を見て、自身としてその難しさを痛感しているところですが、相手国のためにもしっかり貢献していきたいです。



スリランカで廃棄物管理の担当者とは状況把握のための調査を行う

Work

株式会社エックス都市研究所

設立：1971年3月12日
資本金：3,000万円
従業員：139人
本社：東京都豊島区
事業分野：都市環境管理、循環型/低炭素化社会構築、気候変動対策、中小企業海外展開支援、環境ビジネス展開支援、国際環境条約関連など
募集人数：若干名
住所：〒171-0033
東京都豊島区高田2-17-22
目白中野ビル6階
TEL：03-5956-7500
HP：https://www.exri.co.jp



第7回アフリカ開発会議（TICAD7）にて「アフリカのきれいな街プラットフォーム」での活動紹介

環境分野の課題解決で 選ばれ続けるプロ集団

持続可能な脱炭素社会をデザインし、プロデュースする専門家集団のエックス都市研究所。「環境、エネルギー・資源」「都市空間・地域社会」「途上国支援」の三つの領域において、地球環境づくり、都市・地域づくりなどを普遍的な社会的課題として掲げ、その解決方向として、低炭素社会からさらに一歩先を見据えた「持続可能な脱炭素社会」の構築を目標としている。

同社はこの目標に向かって、上記3領域においてプランニング、コンサルティング、コーディネート、エンジニアリング、ネットワークの各ツールを駆使し、課題に対する実現可能な処方箋を45年余りの業務展開で培ってきた。サステイナビリティ・デザイン事業本部、環境政策研究本部、国際コンサルティング事業本部、環境エンジニアリング事業本部があり、各組織の専門

性を発揮しつつ、時に組織の専門領域を超えて横断的に課題へと取り組んでいる。

世界が求める行動理念が 事業拡大の機会を生む

パリ協定や持続可能な開発目標（SDGs）など、環境問題解決に向けた取り組みが世界中で始まっている。その動きは、エネルギー利用を根本的に変えた社会経済システムの構築や、まちづくりを追求してきた同社の行動理念とマッチし、同社が活躍する場はますます広がりをみせている。

求める人材について代表取締役の内藤弘さんは、「環境づくりの課題は、今後も複雑化・複雑化し、解決困難なものとなっていくと思われませんが、そこが当社が存在し得る背景でもあります。まずはその課題領域について深い関心を持ち、諦めずに考え続け、自分の成果に対して妥協しない人が求められます」と話している。